



官林損害事件抄録

835



114
A 3846

明治十一年四月廿八日



大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

内務九等属次田俊一郎
内務九等属山家 麓 報告

青森縣下官林保護方法ノ事ハ曩ニ既ニ陳述
セリ抑該縣下ノ山林ハ悉ク良材大樹ニシテ
其間盜伐ノ痕跡ヲ檢出スルモノ其幾數十ル
ヲ知ラス甚シキニ至テハ雪穴ト稱ヘ積雪ニ
際ノ穴ヲ穿チ中ニ盜伐木ヲ隱藏シ時ヲ量テ
搬出スル者アリ是ニ於テ特ニ金五百圓ヲ地
理局定額費ヨリ支出シ之カ監守人ヲ配置ス
ト雖氏擇撰其人ヲ得ス且之ヲ督責スルモノ
アラサルカ故ニ事皆有名無實ニ属シ終ニ其
効ヲ奏スル能ハス依テ乞フ小官等ニ委スル

青森

ニ此金額ヲ以テセハ精細適當ノ監守人ヲ撰
三之カ督責ヲ爲シテ其保護方法相立ヘク云
々是レ官林損害ヲ証スル一例ナリ

明治十一年八月十三日

青森縣出張

一 内務三等属竹村尚義上申

青森縣ハ官林方積箇所及木數モ他ニ比準シテ少カラ
サルカ故ニ既ニ地理局定額費ヲ以テ金五百七拾餘圓
ヲ支辨シ監守人貳百六拾餘名ヲ配置セリ然ルニ其九
年度ノ盜伐木志萬五千七百本ニ上ルニ至ル之ヲ多數
ト云ハサルヲ得ス右實際ノ景況ハ今般直轄出張官吏
ノ申稟ニ據リ之ヲ確知スルヲ得タリ故ニ其略ヲ陳述
セシ

抑該縣下ノ儀ハ旧藩ノ時頗ル苛法ヲ設ケシ故其人民
皆能ク密網ヲ脱スルノ詭術ニ長シ而シテ維新ノ後該
法漸ク弛ム故ヲ以テ猾民益譎詐ヲ逞クシ遂ニ官林ヲ

以テ奇貨トナシ之ニ據テ活計ヲ營ム者歎カラサルニ
至ル其近時ノ景況ヲ見レハ各村内抽籤或ハ交番ヲ以
テ特ニ盜伐犯主ヲ定メ或ハコレヲ肯ンセサル者ハ課
スルニ若干ノ償金ヲ以テス而シテ其官ノ視察ニ遇フ
牛ハ該犯主甘シテ之ヲ負擔シ其家族ハ村中一同ノ救
養ヲ受ルノ契約ヲ為シ恬トメ刑辟ヲ恐ルノ態ナシ
之々是レ官林ノ損害ヲ証スルノ一例ナリ

明治十一年十月

一 内務十等属原正澄私報

青森縣ノ事ハ前ニ既ニ陳了ストイヘ且尙出
張員ノ報ニヨレハ中山巡回中十有餘日間ニ
シテ盜伐木三千四百壹本ヲ檢出シ而シテ其
犯罪人若干ヲ警察官吏ニ引渡シタリト云ヘ
リ是レ官林損害ヲ証スルノ一例ナリ

明治十一年十月八日

一 内務三善属竹村尚義報告

上 畧 青森縣 下 盜伐、著シキ者 一ニヲ擧ケハ
 官林ハ 檜樹ヲ 暴伐ノ 銀治炭ヲ 製煉スル者ア
 リ、銀治炭ヲ製スルハ檜樹ヲテ途上之ヲ遠望ス
 以テ最上品トスレハナリ
 ルニ 官林内日トノ八九ヶ所 燄煙起ラサルテ
 キニ 至ルアリ 檜樹ノ 森々トシテ 肥大 延長シ 益
 天賦ノ 性分ヲ 遂成セシトスル者 樹皮ヲ 剝削
 シ以テ 建築用ニ 鬻賣セラル、カ 為メニ 數十
 年、 星霜ヲ 徑過シ 漸ク 喬木トナラントノ一
 朝 枯死スルニ 至ル者 詩多アリ 楓 桂ホテ 除ク
 外 潤葉樹ハ 悉皆 雜木ニシテ 濫伐 暴斫ヲ 加ヘ
 薪炭 用材ノ 内ニ 拂下ルモ 縣官之ヲ 黙許スル

カ、如ク且地九人民一家所用ノ薪伐ヲ伐採ス
ルカ、如キハ殆ト公訴、安ラナスニ至ル者ア
リ、其他妻子蕃族ヲ牽キ常ニ深山ノ中ニ起居
シ、官本ヲ以テ証水舞ヲ製スルカ、如キ枚率ス
スルニ違アラスノ其弊害ノ顯赫ナル實ニ思
想ノ表ニ出テ殆ト名状ス一カラス今、僅十
餘日間ニ其取押ヘタル亦致三千四百枚率ニ
至リ、隨テ犯罪人ヲ告發シ、警察官ニ引渡シタ
ル者若干云々是レ官林ノ損害ヲ証スル一例
ナリ

明治十一年十月九日

内務三等屬竹村尚義報告

一 青森縣下津輕郡内、下部村官林ニ盜伐ノ聞ヘ
アルヲ以テ之ヲ精査スルニ果シテ三百十七
本ヲ伐採シ其過半ハ既ニ水枝トナスニ至レ
リ、因テ之レカ取締ヲサシムルモ到底此
地ニ於テ發賣スルキハ茲民協合團結シ低價
買得ヲ要スルカ故ニ唯他所一轉運シテ彼
カ、陷阱ヲ避ルニ外ナシ云々是レ官林損害ノ
一証ナリ

考案

明治十一年十月三十日

一 内務九等属 原正澄報告

犯罪人 古寺之者津野郡内真部村ニ於テ不正
 木ノ取扱ヲナスカ故ニ之ヲ精糺スレハ全ク
 官亦ニ相違ナキ旨首伏セラルヲ以テ諒亦杖檜
 角凡ニ合五百七拾貳ニ取押一犯罪人ハ地方
 警察官一引渡云々是レ官林ノ損害ヲ証スル
 一例ナリ

明治十一年十一月二日

一 内務九等属原正澄報告

青森縣下外ヶ濱小庄内近傍一派出ノ際許多
 ノ盗伐木ヲ告發シ中ニ就テ犯罪人六名亦材
 五百七拾貳本ハ即日警察所ニ引渡シ自余盜
 伐木千百本及盜伐亦混淆材千三百餘ノ合計
 貳千餘本ハ取押即令專ラ調査中ニ有之此勢
 ヲ以テ林相上ヲ視察スレハ到底巡視監守人
 ヲ充分配置ヒサルヲ得ス云々是レ官林ノ損害
 ヲ証スル一ナリ

考案

明治十一年十一月十九日

一 内務三等属竹村尚義報告

巡視神巡回之際東上山小區虹貝官林ニ於テ
 取押ナル所ノ盗伐亦檜杉凡六合百三十拾壹
 有之犯罪人不明ニ付諒亦ハ一應地方警察
 官白引渡云々是レ官林ノ損害ヲ証スル一例
 ナリ

内務省

明治十一年一月十八日

一

内務三等属深井寛報告

秋田縣下官林拂下ヲ名トノ濫伐ヲ逞フスル者十中八九ニ居ル其名ハ百本ノ請願ニシテ内實數百本ヲ伐採シ或ハ願旨外ノ良樹ヲ伐採シ又ハ其樹皮ヲ剥去シ之ヲメ枯木トナラシムル等狡獪云フ可ヲサル者アリ云々是レ官林ノ損害ヲ証スル一例ナリ

明治十一年三月廿九日

一

内務書記官官島信吉信報

長野縣下木曾伐木所出張官吏ノ信報但明治十一年
四月十七日上 損木拂下ヲ請フ者一村或ハ數
覽ニ供シ置ク 村共有之名義ヲ以テスト雖其事實ハ該村一
 二名ノ狡猾者共高ト相謀リ名ヲ村民一般ニ
 藉リ以テ自己ノ私利ヲ營ム者ニ過キス故ニ
 其官ノ恩典ハ一般淳朴正良ノ村民ニ浹洽セ
 サルノミナラヌ徒ニ奸商黠賈ノ詐術ヲ助ケ
 遂ニ事ヲ損木ニ托シテ之ヲ伐採スルノ際林
 中數多ノ良樹ヲ毀傷セシノ其弊舉テ云フ可
 ラヤルニ至ルニハ是レ官林ノ損害ヲ証スル
 一例ナリ

長野

明治十一年九月廿二日

木曾巡回先

一 内務二等属深井寛報告

長野縣下ノ景況ヲ前ニ陳説シタリト雖氏今
 又其出張局員ノ報知ヲ陳セシテ谷官林ニ
 於テ盜伐ノ聞ヘアリシ故實地ニ就キ親シク
 之ヲ探損スルニ損木拂下ヲ名トシ他ノ良樹
 ヲ伐採スル者アリ拂下出願ノ許可ニ先タチ
 既ニ斧鉞ヲ下ス者アリ或ハ名ヲ私林ニ托シ
 或ハ口ヲ末木残樹ニ藉ル者アリ到ル處濫伐
 比々皆是ナリ因テ夫々事實取糾証跡判明ノ
 分ハ迅速最寄警察署ヘ照會云々是レ官林ノ
 損害ヲ証スル一例ナリ

長野縣

明治十一年十月廿三日

一 内務一寺属奥津實報告

信濃國筑摩郡奈川村字民勝山市兵衛ノル者
 本年五月中同村字小黒川字黒川字大唐澤三
 ケ所、官林ニ於テ檜榎立木四百三十八盗伐
 シテ示後反省悔悟岐阜出張所一寺助寺小林
 久右衛門、亦曾地方ヲ巡回スルヲ付ニ自首
 スルヲ以テ最寄警察所一引渡亦材ハ地元扱
 所ニ附托セシ旨深井二寺属ヨリ通知云々是
 レ官林ノ損害ヲ証スル一例ナリ

明治十一年十一月八日

岐阜縣巡回先

白粉三等属深井買上申

当管區惠那郡阿木村 字九山官林内ニテ過ル
 十年四月中罹災枯木ノ内木數五百四本外ニ
 字六郎澤ニテ木數千百十二本ヲ候セ代金貳
 百六円七拾五錢五厘ヲ以テ岐阜縣ニテ公賣
 取斗ラヒ右拂受又藤井武平ヨリ更ニ同縣土
 族長谷川辰平始ニ讓渡同又キニテ目下仕出
 中前書跡碓ノ官木千百四十五本盜伐セラレ
 シヲ以テ助手沙達嚴明取調且其筋吟味
 濟ノ上本犯ハ除族懲役ノ處漸濟云々是
 レ官林ノ損害ヲ証スル一例ナリ

岐阜

滋賀

明治十一年十月三十一日

内務八等属小山慎平報告

滋賀縣巡田ノ際近江國滋賀郡錦村官林ニ於
 テ伐木ノ痕ヲ発見セシ故之レガ取亂ヲ為セ
 レ即チ其木救一、百本余ニシテ本犯罪者モ夫
 々明確ニ付該縣へ其處分方照会ニ及ビ置ク
 云々是レ官林ノ損害ヲ証スル一例ナリ

各

各

福

明治十一年五月十一日

福田縣ヨリ出張局員ノ報告

一 當福田縣下ハ廢藩以後官林藪盜伐ノ害ヲ蒙ルヤ日一日ヨリモ甚シク從來有名ノ竹林モ目今大ニ荒敗ニ趣キ尋常一般ノ竹木ト異ナルナシ令其之ヲ致ス所以ノ原因ヲ研窮スルニ職トノ無監守ニ之レ由ル因テ監守人配置ノ方法經費額調査通送云々是レ官林ノ損害ヲ証スル一例ナリ

務

務

明治十一年八月十日

一

内務十等属内藤 潔 報告

大分縣下豊後國海部郡ノ如キハ海岸ニ濱スルカ為メ
 二、私林僅少而シテ其民多ク漁獵ヲ事トシ固ヨリ蠢愚
 無知ナレハ盜伐類々トシテ行ハレ到底巡視監視人
 ヲ配置スルヲ俟ツノ遑アラス特ニ先ツ助手ヲ配置シ
 之カ保護ヲ為スヘキ云々是レ官林ノ損害ヲ証スル一
 例ナリ

客歲府縣事務章程御改正ニ付テハ例規アル官有地ノ貸
 渡ハ府縣へ御委任ノ姿ニ相成候得共官林ノ義ハ普通官
 地トハ大ニ相異候モノ故仮令貸渡ト雖モ府縣限リ御任
 セハ相成難ク義ト存候乍去章程上別段ノ明文無之ニ付
 既ニ福島縣ニ於テハ一般官有地ト見做シ處分致シ居申
 實地不締之義不少候条何卒官林ノ義ハ普通官有地ト區
 別相成候様御詮議相成度此段申上候也

官城福島兩縣出張

明治十二年一月

富山省三

依藤忠夫手書

生已一兩日濱松支廳へ出頭專ら殖樹ノ事ヲ協議シ縣
官ノ内幕ヲ察スルニ最早近縣ノ直轄ニナリシヲ以テ官
林事務ハ遲疑躊躇一ニ直轄ノ令ヲ待ツモノ、如シ速ニ
直轄ノ号令ナクハ事務上幾分ノ防碍ヲ免カレス御参考
マテ言上致置候此義ハ深井ヨリ上申ノ積今日
其事情ヲ同人ニ申置ケリ

此度静岡本廳ニテ最初還祿者へ拂下ケシ官林ヲ取消更
ニ遠州ニ於テ千四位ノ官林ヲ僅ニ五十四位ニ拂下ケレ
トスルノ形況アリ支廳官貞ヨリ内々生へ告訴セリ委細
ハ寫ト詮議ノ上可申上候得共先不取敢別紙上申仕候付
至急御達シ被下度候

本日電信ヲ以テ長上郡小林苗木買上ノ一条御内慮伺置
候ニ付御答達之上ハ直様入費豫算表ヲ差出シ植付ニ著

手仕へクト存候

即今ハ助手ヲ以テ監守人配置ノ事ヲ取調居候是ハ不日
調査ヲ可終ト存候付追テ上申可仕候
先ハ前条申上度草々頓首

十二年一月廿日

依 藤 忠 夫

局長

榻下

小松精一第一類第七十一号拔萃

一 茂道官林ヲ過キ南ニ下ル凡志里許ニシテ一流ノ溪泉
ヲ以テ肥薩ノ界トナス夫ヨリ南進スルヤ地味頓ニ下
リ草木ノ生長甚ク好カラス但並木ノ松ハ蒼々トシテ
大木不尠就中出水野田阿久根邊ノ行樹太キハ殆トニ
丈回リナルモノアリ小キモ四五尺ニ下ラス惜ムヘシ
或ハ根ヲ燒キ皮ヲ剥キ及ヒ根ヲ切り幹ヲ断チ人為ヲ
以テ傷損木ヲ造リ奸民ノ手ニ落ルモノ少ナカラス此
弊ヤ何レノ州トシテアラサルナシト虫氏薩ヲ以テ尤
甚クシ、ス而モ薩ノ行樹ハ他州ノ行樹ニ優レリ如何
ニ戰國ノ跡ト虫氏警保ノ至ラサル嗟悲哉出水高城薩
摩日置鹿兒島ノ五郡中經過目撃セシ諸山ハ實ニ樹少
ナク偶アルモ松樹少々タリ杉檜其外ノ針濶葉樹共ニ

極稀ナリ是ハ私學校黨ノ濫伐ニ因スルナルヘシ肥後
州南目撃セシ諸山ハ官林多ケレバ薩ノ諸山ハ察スル
所多ク民有ニ係ルヘシ

高取官林巡視ノ概況報告

明治十二年
一月十四日

内務八等属清水徳威

高取官林ハ大和國高市吉野ノ兩郡ニ跨リ其及別ノ確實
ナルハ得テ知ル可ラスト虽推算スルニ凡九百町ヨリ
少ナカラサルヘシ亦其木種ハ全林ノ強半松樹ニレテ
杉檜經年久シカラス樹齡從ラ稚ナリノ森羅スルアリ
ニ杉檜林置密ニ過キ洗伐セサル可ラスノ森羅スルアリ
大ニ将来ニ期望アル林相ナリ徳威頃日縣官同行巡視數
回ニ及ビ足跡殆ト闔疆ニ遍カラントス然リ而レテ到ル
處盜伐ノ断株指屈スルニ勝ヌ且ツ伐後未タ久シカラサ
ル幹枝ノ路傍谿間ニ横斜スルモノ往々アリ抑徳威巡視
以降斯ノ如キ甚シキ惨況ハ未タ曾テ經過地ニ見サル所
ナリ因テ村吏ニ問フ答テ曰ク是多クハ近傍村民ノ兵業
ナルヘケレバ亦監守者ノ兵為モ少ナカラサルヘント於

是カ頗ル疑惑ナキ能ハス愈之ヲ詰問スルニ曩ニ本縣監
 守ヲ各林ニ配置セシハ客歲三月ニアリ尔来該官林監守
 五名ノ内三名 東庄九郎竹村ハ最ニ監守ノ威ヲ弄レ一山
 ヲ攀テ私有タルモノ、如レ殊ニ甚レキハ自ラ盜伐ヲナ
 レ或ハ損木ヲ生レ官林ヲ將テ暗ニ射利場トスルモノニ
 似タリ其奸曲至ラサル云ク人亦知テ之ヲ彈指セサル
 モノナレ遂ニ積罪發露セラ過日警察署ニ拘番スルトナ
 レリ又一日巡視ノ際字アカヲキ云處ヲ過ク偶々十数人
 ノ樵夫各自ニ鎌鉞ヲ提携シ此草ヲ芟伐スルニ逢フ其動
 作ヲ見ルニ刈ルモノハ獨リ下草ノミニ止ラス苟モ林陰
 ニ叢生スルモノハ柴篠ハ固ヨリ他年良材トモナルヘキ
 稚樹ヲ擇ハス鎌ノ及ハサルモノハ鉞以テ之ヲ助ケ蕩然
 芟盡セサレハ止マス其慘毒名状ス可ラス且ツ各自ニ携

帶スル所ノ鑑札ヲ點檢スルニ悉ク左ノ如シ

明治十七年寅正月十七日 十二年卯三月十六日ニテ	第六拾五号 字カウラ小カ一号
表 ○下草落葉鑑札	裏 ○ 高取 官林取締 烙印
東庄九郎	真弓村 森井添平

十数人中一モ本縣下付ノ鑑札ヲ帶ヒタルモノナシ但本縣下
 付ノ鑑札ハ一字一枚ニシテ最初拂下而シテ該下草タレ
 ヲ請願セシモノ、手ニアルヨシナリ
 ヤ甲ヨリ乙ニ譲リ乙亦丙ニ傳エ轉賣極リナシ初メ料金
 五圓上納スルモ終ニ五拾圓ノ賣額ニ進ムヲ以テ唯下草
 落葉ノミニテ尚且ラス施テ柴薪ニ及ハサルヲ得ス於此
 徳威愈激ニ堪ス大聲疾呼深ク将来ヲ縣官ニ協議セリ之
 ニ由テ推考スルニ下草刈取ノ弊害ハ當所ノミニ限

ラス之ニ類似ノ所業他ニ必シモ無シト測ラレス旁以テ御参考ノ一端トモ可相成ト存シ其實況ヲ概陳シ敢テ訶告候也

地理局長ヨリ静岡縣ニ照會

遠江國官地拜借等ノ儀御伺書中佐野郡平島村中山三千藏植立木ノ儀ニ付再應御照會ノ未一月三十日付御回答ノ趣致兼知候然ル處前御回答ノ節御差添ノ苗木私費植付手續書ノ趣ニテハ現今在ノ立木ハ天保十四年中植付ナル由然ルニ今般本人ヨリ差出候木數共寸間取調書ニハ八尺回り式ハ六尺回り等ノ分有之古ハ天保十四年中植付候モノト見認ガタク將又最前私木ト確定相成タル手續書輝ト不致様被相考候右旧縣取調済ノ趣ニ付テハ右旧縣當時主務者ノ取調振等篤ト御取糺ノ上尚委詳御回答有之度此段及御照會候也

筑前國志摩郡谷村學校敷地之儀上申

明治十一年十一月三十日

内務十等属内藤潔謹白

十一月十八日付第九七五〇号ヲ以テ小學校敷地願出ノ
 儀ニ付御達ノ旨ヲ奉シ本月廿八日及三十日了ヤスレテ
 歸ル兩度該地江出張シ照檢候處立木ハ既ニ伐尽シ跡地ハ
 學校建設有之案内ノ戸長ニ問糺候處一昨年中明治九年出
 願シ四年六月ヨリ建築昨十年三月落成其四月ヨリ開校
 尔後引續キ教授ヤリト當時ノ戸長永田某專斷ノ免職ヤリト云フ其地
 檢シ且戸長役場ノ村圖ヲ閱スルニ別付圖面之通り二箇
 ノ官林ナリシヲ縣官調査ノ際合併シテ一トシ即今ノ

官林帳上第三ノ員外林壹及十畝拾壹歩トヤシナリ故ニ
木猶寺尺田ヨリ五六尺マテ列立セラルヲ異トスル地ノ
之ヲ此度ハ村民ハ願書ヲ出縣官誤テ舊簿ニ依テ付合ヤ
斯ク胡亂ナル圖面ヲ出マシモノト思考ス

右ノ實況ナルヲ以テ其縣官ノ何故ニ今迄學校ヲ差止メ
置カサレシ故何故ニ此度ノ申文ニ其事情ヲ詳陳セサリ
シ歟ハ姑ク置キ前陳ノ言ノ如ク既ニ學校建設後ナルニ
林地ハ海濱ニ墓地ニ隣シ斷截ヤル小及歩ナルヲ以テ只
御下渡ノ儀ハ支障無之存候其及歩圖面ノ如キハ猶今一
應取調為指出可然歟

右敷地ノ實況具狀候也
追テ木件ノ如キ若シ直ニ縣官ニ資議ヤハ即時明了ナ
ルヲ得ヘク且從テ其誤錯ヲ訂正ヤシメハ大ニ往復ノ

費ヲ省クト雖モ素ト出張員ハ御下問ニシテ其体面
只事實ヲ答申スル儀ト相心得候以後ニ於テモ斯相心
得可然哉一應相同候也

小學校敷地御下附之儀伺

明治十一年十月九日

福岡縣令渡邊清

筑前國志摩郡谷村

九百七十八番
字免苗原

官林及別壹及三畝三步ノ内

一及別壹及步

官有地第三種

是谷村小學校敷地トシテ魚代價御下與相成度分

立木

一松本貳拾本

此日通貳尺ヨリ五尺迄
長貳同ヨリ四同迄

此木代金五圓八錢五厘但寺本二付貳拾五錢

一同木四拾木 但寸廻未滿

此木代金壹圓六拾錢

合全六圓六拾八錢五厘

右ハ管下筑前國志摩郡谷村小學校敷地トシテ書面之地
所御下與之義出願候付其地點檢為致候處官林之内ニ
候得共員外之部分ニシテ聊支障之場所ニ無之候間地所
之義ハ無代價ヲ以テ御下附立木ハ公入札取計候處前頭
之通不相當無之候条古代金ヲ以テ御拂下御許可相成度
然ル上ハ地種組替及ニ木代納方等御成規之通取計可申
則圖面一葉相添此段相伺候也

官有地拂下ノ儀御推問ニ付答申

明治十一年
十二月十二日

九等屬原 純

山秋縣下羽前國置賜郡綱木村

字加勇沢官有 願人

一 荒蕪地及別廿五町步 全 村

此相当代價八圓廿五錢 但金三錢三厘

全縣下全圖全郡全村地内

字一ノ沢官有 全

一 荒蕪地及別五拾町步 全

此相当代價拾三圓 但金二錢六厘

右拂下可否見込取調可申上旨云々御達ニヨリ實地調査
候處右箇所ノ儀ハ荒蕪地ニハ無之樹木生立字一ノ沢
雜木林字加

勇生ハ雜木或ハ小松等有之嶮且ノ地ニテ開墾等可相成
地況ニハ相見不申候条願人等呼出シ願未取立候處右ハ
谷沿ノ地ニ於テ桑植付其他ハ薪炭採樵致度旨ヲ以テ歎
願及候訴キ就テハ談縣申立トハ稍々齟齬ハ不都合
合不勘就夫及覆審查及候處別紙畧圖ノ地勢ニ付右谷
筋朱点ノ地ニ就キ幾部分カ區畫ヲナシ桑植付ノ為
貸渡相成可然カ其他ハ先以テ御拂下不相成方ト存候尤
談山ノ儀ハ至便ノ土地ニハ無之何レ薪炭山ノ為ノ存置
可致見込ノ地ニ付若シ雜木拂下願出候ニ於テハ年々相
當代價ヲ以テ御賣下相成可然ト存候仍テ此段御答旁上
申仕候也

追テ山形縣ヨリ伺存并繪圖面等返上仕候也

第壹類第拾壹号

第一林區千葉縣下官林巡視ノ儀ニ付申報

明治十二年五月六日

内務九等属小崎利英謹白

今般小官千葉縣下巡回ノ余ヲ奉シ全管下官林上ニ係リ
其現況偏ク巡視候ニ是近談縣下ニ於テ彼是民願ノ情状
稟申相成既ニ御許容ノ中申立ノ景況等往々實地相違セ
ルモノモ之レアリ大ビニ遺憾ニ堪サル場合ニ右ノ要
スルニ元來縣官ノ旨趣タル唯ニ勸業ヲ更張シ林制ノ義
ハ措テ問ハサルモノ、如ク較々偏倚ノ姿ヲナシ為
入民ニ於テハ其機ニ采シ名ヲ種々ニ託シ出願スト虫氏
其實際ニ至テハ專ラ官林内ニ立入自林同般擅ニ斧鋸ヲ
施シテ企望シ畢竟私己ノ射利ニ注目スルノミニ

千葉

内務省

モ林位盛衰ヲ慮ラサルハ論ナシ況ヤ幾分カノ碍
生ス景情等實ニ其弊ヤ目撃ニ難堪折柄已ニ現今地方廳
迄出願中ノモノモ不勘哉ニ相聞右者早晚上申ニモ相成
ハク義ト考ヘラレ候間談縣具申ノ廉ハ一層神喪考
上
何分ノ御決裁相成候様仕度此段為念上陳候也

明治十二年五月六日

内務九等屬小崎利英印

地理局長櫻井勉殿

第壹類三拾五号

神殿脩繕學校建築等ノ名ヲ假リ猥ニ境外林木拂
受ノ弊害上申

客月中伊賀国各官林ヲ巡視候ニ伊賀郡白檉村ハ幡社境
外林ニ於テ曩ニ神殿脩繕ノ為メ立木拂下相成候伐跡ヲ
視ルニ全林中ノ良材ヲ撰ニ拔伐スルハ言ヲ跋ス伐木ノ
際衡路ニ当リ候樹木ハ壓倒セラレ亦損傷セラレタル其
惨状言ヘカラス然ルノミナラス故サラニ損木ヲ作為シ
低價入札拂下ヲ陰謀スルモノナキニシモアラサル哉ニ
相聞可憎ノ所業ニ有之候且又阿拜郡法華村應感神社其
他境外林ニ於テ禁費用材ノ名ヲ以テ既ニ拔伐拂受ノ出
願中ニ有之趣ニ候處右拔伐拂下ノ義ハ前頭ノ如ク帝ニ
全林ノ荒害トナルノミナラス拔伐ニ乘シ損木故造

弊ハ現今村一村ニ波及スルモノニ似タリ因テ向來ニ採
ノ出願有之候ハ、輒ク御聽容無之篤ト御詮議ヲ遂ケラ
レ度不取敢此段上申候也

明治十二年六月八日

内務八等属清水徳威

山林局長櫻井勉殿

第壹類第六拾九号

上申
福岡縣管ノ負外ノ立木アルモノ部分林調査ニ付

明治十二年一月廿二日 内務九号爲内藤潔謹白

有立木負外林ニ於テ部分植付顯出ノ箇所ハ箇面相添可
同出トハ本省ヨリ一般ノ御指令振ナリ故ニ此度六十七
号ニ上申ヤレ通り負外林ノ立木アルモノハ既ニ縣管ヨ
リテ経伺ノ手續ヲナシ小官モ亦之ヲ巡見セリ然ルニ巡
見ノ際追々村民ニ縣官ノ許可シタル負外林ナルモノ
見聞スルニ樹木アル箇所同々之アリ而テ是ハ樹木アル
キ既ニ許可ヲ得一ハ樹木アルヲ以テ再檢テ受ク其一定
ナラサルヲ訝答モアリ當ニ人民ノ怪々ノミナラス小官

物

ニ於テモ答フルニ言ナレ仍テ此頃出廳シ談話ノ次其檢
査振ヲ聞クニ縣官ノ見込ヲ以テ分割法ヲ行ク適宜處分
シタルヲ以テ彼此定準ナキノ致ス所ナリ譬ハ八五町歩
ノ負外林中一立木寺町歩有奇ニ散在スルアリ其四町歩
ハ分割何町ノ内何町無立木トレテ之ヲ允可レ他ノ一町
歩ヲ有立木トレタルカ如レ故ニ武ハ地形ニ逆テ一ニ
立木四町歩ノ内ニ合ハモノアリ其分割ニ定度ナキヲ以
テ許否煩雜前言ノ如キニ至リレナリ小官仍テ分割不苦
ノ指令ヲ得タル哉ナ同フニ無シ畢竟去ス今將ニ既ニ許
可セシ部分箇所及別ヲ本省ニ出スニ際ス若シ誤解アラ
ハ明了ナルヲ得ヘレト然ルニ其箇所書ナルモノ只皆何
町歩ノ内何町歩許可スト云フノミニテ立木ノ有無ヲ云
ハス仍テ此意ヲ以テ御振圖相成若シ分割ハ御指令ノ意

ニ無之候ハ又次季ノ検査帳ニ干係スヘク候間箇所書届
出ノ節至急該縣ノ御達ニ相成度候
右ハ本條ニ付縣管ヨリ別ニ不同旨申聞候ニ付此段上申
仕候也

明治十二年一月廿日

筑前福岡ニテ
内藤 潔

地理局長櫻井勉殿

